

Monthly
Company
Magazine

ONDO

月刊 おんど

September 9月
No.588 2026

ウチヤ・サーモスタット 株式会社
UCHIYA THERMOSTAT CO.,LTD.

月刊おんど編集部（総務部）

〒341-0037

埼玉県三郷市高州2-176-1

TEL : 048-955-4181

FAX : 048-956-1310

E-mail : info@uchiya.co.jp

千葉豪雨(TBS ニュース参照)による被害について

令和8年8月17日

社長 清水 澄人

千葉県では8月13日、大気の状態が不安定となり、記録的な大雨となりました。千葉豪雨(TBS ニュース参照)による被害について、道路が冠水して車に閉じ込められるなどして、これまでに男女9人の死亡が確認されており、また、床上・床下浸水などの住宅被害はあわせて178棟にのぼっています。被災されました方々には心より哀悼の意を捧げます。

ウチヤ社では8月14日に全従業員及び役員への安否確認メールを行いました。84名に安否確認メールを送付し、役員、研究開発部、生技部、環境品証部、資材総務部は全員無事を確認し、あと9名（製造部、営業部、工場管理部）が返信待ちとなっています。お盆休みと重なり休暇取得者も多く、返信待ちが未だにあることは、今後の課題です。社長としては8月15日の段階で全員の安全が確認出来ないことはシステムの欠陥と思っています。



毎日新聞より

安否確認メールの中で、コメントを残された方がいらっしゃいましたので参考に紹介してみます。

- ①(三郷市中央在住) 昨夜は近隣で冠水がありましたが現在問題無しです。
- ②(葛飾区在住) 昨日、市川に出かけていて道の駅で周囲が冠水し3時間程度、カンヅメになりましたが。20時過ぎに帰宅。雨が落ちつき冠水が引いた後、298号にも故障車があちこちで放置されていました。
- ③(八潮市在住) 昨日の帰宅時に通勤道路が冠水しており、さらに車が水没しそうな水量の道があり、迂回しながら走れる道を探して帰宅しました。数十年通勤してきて初めて帰宅出来るか不安になりました。
- ④(柏市在住) 近所の手賀沼水系の川は夕方から夜半にかけて危険水位越えていました。柏市内のアンダーパスでは水没事故や動けなくなった自動車が放置されたのを見かけました。
- ⑤ 16:00 ごろには「レベル4危険警報」が松戸市等に発令されており、17:30以降「レベル5特別警報」に変更されました。その為、帰宅時に千葉県内の交通機関が混乱、結局は電車が途中から止まり、翌日まで駅で足止めとなり帰宅出来なかった人が1名報告されています。

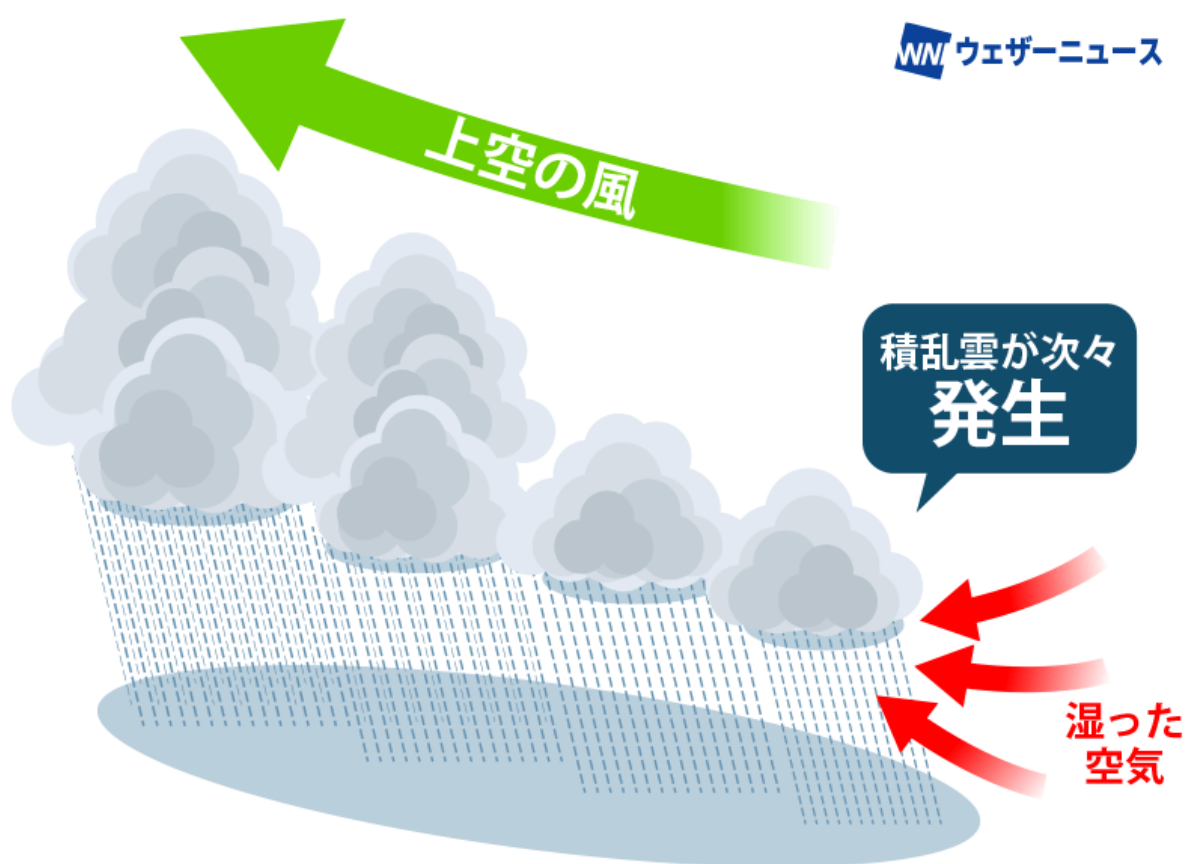
今後、早期の帰宅を促すか、会社での待機、宿泊の対策も必要と考えています。



冠水時は「無理に近づかない・入らない」が最重要です。車も徒歩も水深が浅く見えても危険なので、早めの回避と避難を優先します。冠水路には入らないことを基本にしてください。冠水した道路・車での対応は、冠水しそうな場所（アンダーパス・川沿いなど）には近づかない。事前にハザードマップで危険箇所を把握して置くこと、すでに冠水している道路は原則進入しない。安全に走れる目安は「水面がタイヤ高さの半分以下」とされますが、それでもエンジン故障や流される危険があります。日頃からアンダーパスや土地の低い所、川の増水しそうな場所、等々を走って調べ、迂回路による帰宅方法を調べておく必要があります。又、住まい

自体が安全な場所かも認識する必要があります。国土交通省関東地方整備局のホームページに「関東甲信地域における道路冠水注意箇所マップ」がありますので参考にして下さい。特に崖や、山崩れしそうな地形、地盤が弱い地域、土地が低く冠水の可能性、等々の認識も必要です。

冠水に強い車、メーカー公表の渡河性能や本格オフロード性を重視した目安です。(1) ランドローバー ディフェンダー級：渡河性能が非常に高い (2) ランドローバー ディスカバリー級：最大 900mm 級の案内あり (3) レンジローバー級：高い渡河性能を訴求 (4) ジープ本格 4WD 系：渡河性能基準を重視 (5) 本格クロカン SUV：地上高と悪路性能が高い (6) 一般的な SUV：セダンより有利なことが多い (7) ミニバンやハイト系：車高次第で多少有利。等々から社用車は今後意識して整えたいと思っています。



過去の気候データをもとに調べると、最も雨量が多かった地域では 1 万年を大きく超える、ほぼ起こり得ない規模の大雨だったとみられています。温暖化が進んだ気候を想定して同じ分析をすると、こうした大雨が起こる確率は、すでに過去の気候と比べて 2 倍以上に高まっている可能性があると考えられています。

8 月 13 日(木)は、上空約 10,000m の寒気を伴った低気圧が近畿付近を通過し、その東側にあたる関東では大気の状態が非常に不安定になりました。さらに、千島列島付近の高気圧の周りを吹く風によって、暖かく湿った空気が千葉県付近に流れ込みました。千葉県付近では、風の流

れが変化する境界線(シアライン)ができ、その周辺で雨雲が次々と発達しました。発達した雨雲は風に流されながらも同じ地域を繰り返し通過したため、雨が長時間降り続けました。こうして約8時間にわたって、局地的に非常に激しい雨となりました。千葉市緑区から市原市東部では、574.2mmの雨量となりました。過去の気候では、この規模の大雨が起こる確率は0.001%ほどで、頻度にとすると1万年を大きく超える規模に相当します。また、東金・大網白里付近の373.0mmは約1,182年に1度、千葉市中央区から若葉区付近の362.3mmは約574年に1度、茂原市付近の327.5mmは約277年に1度に相当しました。これらの地域でも、一般的な生活の中では経験する機会がほとんどない、極めて稀な規模の大雨だったと考えられています。このほか、市原市中部、八千代・佐倉付近、長南・長柄付近、野田・流山付近でも、80年から150年に1度程度に相当する大雨が確認されています。

豪雨によって車が水没する被害に遭ったとき、車両保険に入っているかどうかで何が変わるのか。

- 車両保険に加入していれば保険金が支払われる可能性がある ——豪雨により車が水没してしまった場合、車両保険に加入していれば、修理代が支払われる可能性があります。なお、

修理ができない場合(シートの高さ以上に浸水して電気系統がダメになってしまった場合など)や全損(修理金額が車の価値よりも高い場合)の場合に



は車両保険金額の保険金が支払われる可能性があります。

- 安全優先しつつ、雨が引いた後でも車を撮影、加入していた人が保険金を受け取るまでに車が水没してしまった場合には、まずはご自身の命を守る行動を取った上で、車が水に浸かっている状況の写真を撮っておくようにしましょう。このとき、危ないので決してエンジンはかけないようにします。基本的にはエンジンのある前方とマフラーのある後方を撮影すると良い。仮に、水が引いてしまった後の場合には、車を拭いたりする前の段階で写真を撮るようにします。水の跡が車に残っていることもあります。また、停めていた場所の付近の写真もあわせて撮っておくと良い。

以上

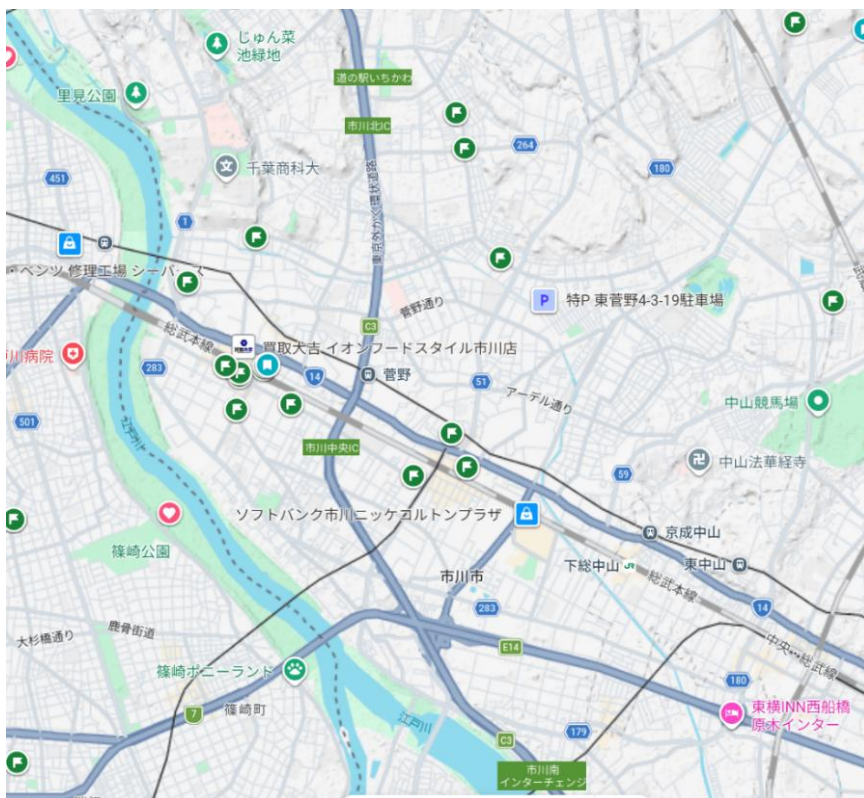
令和8年8月千葉県豪雨 体験記録

2026 年 8 月 19 日
工場管理部部長代行
長谷川 雅也



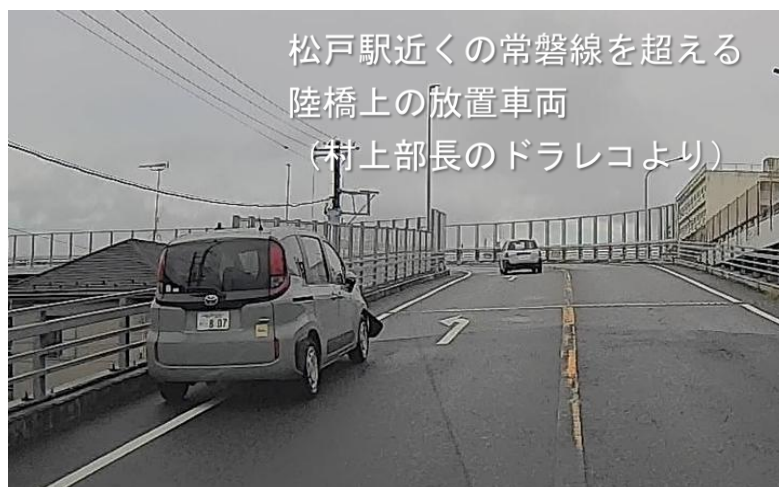
先週の豪雨被害時の私の体験した事を備忘録としてまとめました。幸い特に酷い被害は受けておりません。

8月13日木曜日は夏休み休暇中でした。自家用車で京葉道路を京葉市川ICで16時前に下り、国道298を北上しておりました。それまでも雨が強く断続的に降っていましたが、雨が強くなり京成の線路下のアンダーパスを不安に感じながら通過



しました。菅野通りを超えたあたりから渋滞。水の抵抗を感じながら徐行、床に浸水しないでくれと祈りながら進みました。自動車専用道路で上り、下りと完全に分離されていてUターンも出来ず側道へ逃げる事もできません。交差点には雨水が多く溜まっていました。周辺は西側の標高が高く雨水が流れてくるようです。側溝は処理が追い付かない雨水が噴出しています。なんとか道の駅まで辿りつき館内へ移動。「雨が収まるまで留まる様に」とアナウンスが流れていました。東側には国分川という小さな川が決壊しそうな状況で、道の駅の従業員は心配そうに外を見ています。そのころに、市川中心部在住の親族から電話があり「付近が浸水している、心配しないでくれ」との事。その辺りの状況はおおよそ把握出来ていましたので、私からは「浸水場所と標高差があるか

ら大丈夫、家に留まる様に」と伝えました。その後3時間程度道の駅にカンヅメ。少し雨も弱まり帰宅する事にしました。ここから自宅の葛飾に戻るには「南進して国道14



号(千葉街道)の市川橋から都内へ入る」か「北上して国道6号の新葛飾橋経由で都内へ入る」かの二択になります。私の判断は、①「親族は私が無理して行かなくても安全上問題ない」②「南側の市川中心部方面はGoogle mapも真っ赤な渋滞状況」よって、国道296を北上して帰宅しました。ほとんど車が走っておらず空いておりました。但し、道路上に放置車両や水圧で外れてしまった自動車の樹脂部品などが道路上に散乱していて夜間走行は注意が必要。出来れば走行はしない方が良いと感じました。20時前には無事自宅に帰宅できました。



翌々日の8月15日土曜日は所

用で被害の大きかった千葉市の蘇我まで出かけました。京葉道路は特に問題なく流れていましたが穴川IC付近の上り線路肩にミニクーパーが放置されて、5時間後に自宅へ



帰宅時にも路肩ではありますが高速道路上に放置されたままでした。蘇我の町は被害が大きく、松ヶ丘ICから蘇我駅までの1km足らずの間にも10台放置車両がありました。X上に豪雨発生直後からレッカー業者の「仕事受けます」のポストが多く見られましたがその中には「財閥系保険会社で車両保険に入っている事」という請負条件が見られました。こういう時の為には車両保険の加入しておいた方が良いでしょう。

今回の豪雨を経験していた、私の個人的教訓として。

「少しでも不安を感じたら引き返す」・「雨宿り出来ているならば無理に動かない」といたします

以上